

特別企画：滋賀県内企業メインバンク調査

滋賀銀行が全地域、全業種でシェアトップ ～第2位は関西アーバン、地元信金も存在感を見せる～

はじめに

2018年も引き続き、マイナス金利による貸出金利低下などで、金融機関にとって厳しい経営環境が続いている。上場地銀 80 行の 2018 年 9 月期中間決算では、全体の約 7 割に当たる 55 行が減益となった。近畿でも 2018 年 9 月中間期で地銀、第二地銀 8 行のうち 7 行で本業のもうけを示す実質業務純益（単体）が減益となった。そのため、各金融機関では IT フィンテック化の推進、越境融資など、生き残りに向けた模索が続けられている。

こうしたなか、同年には十八銀行がふくおかフィナンシャル・グループ（FG）の傘下に入る形での経営統合が公正取引委員会より正式に認められた。同グループは 2019 年 4 月に経営統合を実現させる見通しで、さらに 2020 年には長崎県を地盤とする傘下の親和銀行と十八銀行の経営統合を計画している。この統合は、今後同一県内での地銀再編におけるモデルケースとなる公算が大きい。大阪府下でも 2019 年 4 月 1 日に近畿大阪銀行と関西アーバン銀行が合併し、新たに関西みらい銀行が誕生する。今後、地域金融機関では企業との関係構築・深化が一層求められている。

帝国データバンク滋賀支店では、2019 年 1 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS 2」に収録されている滋賀県内の企業（13,626 社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。同調査は 2018 年 3 月に続き 2 回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なることがある。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した。

調査結果（要旨）

1. 滋賀県内の企業がメインバンクと認識している金融機関のトップは、「滋賀銀行」で全体の 59.3%を占めた。「関西アーバン銀行」がシェア 13.8%でこれに続き、上位 2 行でシェア 7 割超を占める
2. 滋賀県内の企業を本社が所在する 7 地域別にみると、いずれの地域でも「滋賀銀行」がトップ。「関西アーバン銀行」が 7 地区中 4 地区で 2 位、残り 3 地区では地元信金が存在感を見せた
3. 滋賀県内の企業を主要 7 業種別にみると、全業種で「滋賀銀行」がトップ、「関西アーバン銀行」が 2 位となった。「滋賀銀行」のシェアは「建設」で 6 割超と最も高かった

1. 県内ランキング ～滋賀銀行が 59.3%でトップ～

滋賀県内の企業がメインバンクとして認識している金融機関は、「滋賀銀行」（大津市）が 8,087 社、構成比 59.3%で、社数・シェアともに 2 位以下に大きく差をつけて首位となり、滋賀県内では圧倒的な存在感を示した。2 位は 2010 年 3 月に滋賀県を地盤としていたびわこ銀行を吸収合併した「関西アーバン銀行」（大阪市中央区）の 13.8%（1,880 社）となった。上位 2 行のシェア合計は 7 割を超えた。

県内に本店を置く金融機関では、「滋賀中央信金」（635 社、構成比 4.7%）が 3 位、4 位に「長浜信金」（489 社、同 3.6%）、6 位に湖東信金（415 社、同 3.0%）、8 位に「滋賀県信組」（224 社、同 1.6%）が入った。

関西アーバン銀行以外の県外の金融機関では「京都信金」（468 社、同 3.4%）が 5 位、「京都銀行」（237 社、同 1.7%）が 7 位となった。メガバンクでは「三菱UFJ 銀行」（145 社、同 1.1%）が唯一上位 10 行に入った。

メインバンク社数上位 20 行

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	滋賀	8,087	59.3
2	関西アーバン	1,880	13.8
3	滋賀中央信金	635	4.7
4	長浜信金	489	3.6
5	京都信金	468	3.4
6	湖東信金	415	3.0
7	京都	237	1.7
8	滋賀県信組	224	1.6
9	三菱UFJ	145	1.1
10	大垣共立	131	1.0
11	京都中央信金	129	0.9
12	三井住友	86	0.6
13	みずほ	72	0.5
14	りそな	64	0.5
15	商工中金	51	0.4
16	ゆうちょ	26	0.2
17	グリーン近江農協	25	0.2
18	甲賀農協	19	0.1
19	滋賀県信連	18	0.1
19	東びわこ農協	18	0.1

2. 地域別シェアランキング

地域別¹にみると、「滋賀銀行」が全地域で50%を超えて首位となり、圧倒的な強さを見せた。また、「関西アーバン銀行」が7地区中4地区で2位となり、残りの3地区でも3位となった。信金では「滋賀中央信金」「長浜信金」「湖東信金」がそれぞれ本店（本部）を置くエリアで2位に入り、地域金融機関としての強みを見せた。その一方で、近隣県の金融機関では「京都銀行」が7地区中3地区でランクインするほか、「京都信金」「大垣共立銀行」もそれぞれ2地区でランクインを果たした。

地域別メインバンク社数上位行

【大津エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,567	57.7
2	関西アーバン	465	17.1
3	京都信金	272	10.0
4	京都	86	3.2
5	京都中央信金	71	2.6

【湖南エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,727	60.2
2	関西アーバン	444	15.5
3	京都信金	174	6.1
4	滋賀中央信金	128	4.5
5	三菱UFJ	67	2.3

【湖東エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,024	61.5
2	滋賀中央信金	297	17.8
3	関西アーバン	161	9.7
4	りそな	37	2.2
5	大垣共立	29	1.7

【湖北エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	952	52.2
2	長浜信金	481	26.4
3	関西アーバン	191	10.5
4	大垣共立	99	5.4
5	北びわこ農協	17	0.9

【東近江エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,402	58.3
2	湖東信金	362	15.1
3	関西アーバン	269	11.2
4	滋賀中央信金	197	8.2
5	京都	30	1.2

【甲賀エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	973	64.8
2	関西アーバン	197	13.1
3	滋賀県信組	152	10.1
4	湖東信金	40	2.7
5	京都	19	1.3
5	甲賀農協	19	1.3

【高島エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	442	68.7
2	関西アーバン	153	23.8
3	滋賀県信組	13	2.0

¹エリアの区分は次のとおり

大津エリア＝大津市 湖南エリア＝草津市、守山市、野洲市、栗東市 東近江エリア＝近江八幡市、東近江市、蒲生郡 湖北エリア＝長浜市、米原市 湖東エリア＝彦根市、犬上郡、愛知郡 甲賀エリア＝甲賀市、湖南市 高島エリア＝高島市

3. 業種別ランキング

主要7業種（「建設」「製造」「卸売」「小売」「運輸・通信」「不動産」「サービス」）別にみると、「滋賀銀行」が全業種にわたって5割超のシェアを占めてトップとなり、「建設」では6割を超えた。2位は全業種で「関西アーバン銀行」が占め、「滋賀中央信金」が6業種で3位となり、「京都信金」が「卸売」で3位となった。

主要7業種別メインバンク社数上位行

【建設】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	3,106	62.9
2	関西アーバン	801	16.2
3	滋賀中央信金	248	5.0
4	長浜信金	186	3.8
5	湖東信金	149	3.0
6	京都信金	136	2.8
7	滋賀県信組	69	1.4
8	京都	57	1.2
9	京都中央信金	51	1.0
10	大垣共立	31	0.6

【製造】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	996	55.5
2	関西アーバン	205	11.4
3	滋賀中央信金	85	4.7
4	京都信金	74	4.1
5	三菱UFJ	65	3.6
6	長浜信金	60	3.3
7	湖東信金	58	3.2
8	京都	54	3.0
9	三井住友	35	1.9
10	滋賀県信組	33	1.8

【卸売】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	669	59.9
2	関西アーバン	117	10.5
3	京都信金	56	5.0
4	滋賀中央信金	46	4.1
5	長浜信金	39	3.5
6	湖東信金	31	2.8
7	京都	28	2.5
8	滋賀県信組	19	1.7
9	大垣共立	18	1.6
10	三菱UFJ	17	1.5

【小売】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,050	59.5
2	関西アーバン	216	12.2
3	滋賀中央信金	101	5.7
4	京都信金	77	4.4
5	長浜信金	71	4.0
6	湖東信金	71	4.0
7	滋賀県信組	47	2.7
8	京都	29	1.6
9	大垣共立	22	1.2
10	京都中央信金	12	0.7

【運輸・通信】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	266	56.6
2	関西アーバン	88	18.7
3	滋賀中央信金	17	3.6
4	長浜信金	16	3.4
5	京都信金	13	2.8
5	商工中金	13	2.8

【不動産】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	359	54.8
2	関西アーバン	99	15.1
3	滋賀中央信金	27	4.1
3	長浜信金	27	4.1
5	湖東信金	24	3.7

【サービス】

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	滋賀	1,525	58.1
2	関西アーバン	334	12.7
3	滋賀中央信金	104	4.0
4	長浜信金	84	3.2
4	京都信金	84	3.2
6	湖東信金	66	2.5
7	京都	41	1.6
8	滋賀県信組	34	1.3
9	三菱UFJ	23	0.9
10	大垣共立	18	0.7
10	ゆうちょ	18	0.7

4. まとめ

滋賀県下のメインバンクは、引き続き「滋賀銀行」が6割近いシェアを有し、全地区、全業種でトップとなり、地元を地盤とする地域金融機関としての存在感を見せた。また、2010年にびわこ銀行を吸収合併した「関西アーバン銀行」が7地区中4地区で2位、主要7業種の全業種で2位となった。また、信金が地元地区で強みを発揮するほか、近隣県の地銀や信金も上位に入った。

シェア2位の関西アーバン銀行は、2017年11月から関西みらいフィナンシャルグループ傘下に入り、2019年4月には近畿大阪銀行との合併を控えている。この関西最大の地銀連合の誕生は滋賀県の金融情勢に大きな影響を与えることとなるだろう。

その一方で近年、少子高齢化による地域人口の減少や経済の縮小を背景に、預金を貸出に回して利ざやを得る銀行本業の部分では利益が得にくくなっている。金融庁の有識者会議がまとめた報告書によれば、人口減少など経営環境の悪化で地銀1行のみでも経営存続が難しいとした地域は、23県に上ると試算。収益の確保で県境を越えた再編を含めて選択肢になるとしている。

このような状況下、各金融機関は付加価値の高いサービスにより金利反転に向けた取り組みをスタートさせている。経営環境が大きく変化している金融業界にあつては、過度な金利競争から脱却するため、新たなビジネスモデルへの転換が急務となっているといえるだろう。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク滋賀支店 担当：北村

TEL 077-566-8230 FAX 077-566-8233

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。